

まえがき

本報告書はアジア経済研究所で平成 17 年度に実施された新領域基礎研究「アフガニスタンおよび周辺諸国の国際関係」研究会の成果の一部として刊行されるものである。この研究会は開発途上国に関する調査研究の一環として 2 年間の予定で企画運営されており、本報告書は 1 年目の中間報告のうちの一冊である。

本研究会はその目的として「アフガニスタンを軸とする周辺国の国際政治関係を具体的に解明し、安定した域内関係のもとでアフガニスタンの復興事業が国際的支援を得つつ長期的に進展するためには何が必要なのかを明らかにすること」を謳っている。

本報告書は戦前期の 1930 年代に日本人技術者として初めてアフガニスタンに長期間滞在して技術指導を行なう傍ら、現地語を習得してアフガニスタンに関する包括的な情報の収集を行なった故尾崎三雄氏の未公刊記録を紹介することを通じて、日本の対アフガニスタン関係の歴史的な検証という観点から上記の目的に資することを目指している。

本報告書の構成については目次に示した通りである。まず本報告書において中心的に扱われる尾崎三雄の人となりとアフガニスタンに関する主要な著作を「解題」において紹介し、本体の部分では最初に尾崎のアフガニスタン研究への導入として「ラジオ放送用原稿」を配した後、10 冊のフィールドノート「解題」の分類に従って「紀行文」3 冊、「農作業記録」5 冊、「総記・雑記」2 冊の順に提示した。

本報告書の作成には尾崎幸宣さん、昭子さんをはじめとする故尾崎三雄氏のご遺族の方々から格段のご好意を受けた。山口県立徳山高校教諭の藤村泰夫氏と一橋大学学生の河村俊江さんにもお世話になった。一橋大学の加藤博教授と日本女子大学の臼杵陽教授には作業の途上で相談に乗っていただき、また様々な便宜を図っていただいた。実際の膨大な入力作業を献身的にこなして下さったのは絨緞研究家の深見和子さんである。ここにお名前を記して心よりの謝意を表したい。ただし編集上の責任はすべて編者が負うものであることは言うまでもない。

なお本報告書の刊行にあたっては、文部省科学研究費「基盤研究 (A) 日本・イスラーム関係のデータベース構築——戦前期回教研究から中東イスラーム地域研究への展開」(研究代表者臼杵陽) の共同プロジェクトの一環として援助を受けたことを付記する。

平成 18 年 2 月 28 日

鈴木 均